

# 浅間山の噴火警戒レベルを確認しましょう

問い合わせ先  
総務課防災情報係  
(32) 3 1 1 1

浅間山大規模噴火を想定したハザードマップが公開されています。改めて、浅間山の噴火警戒レベルについてご確認ください。

浅間山の活動状況に応じて、気象庁は5段階の噴火警戒レベルを発表しています。各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目でわかるキーワードを設定しています(下表を参照)。

なお、町の居住地域まで影響が及ぶ噴火の発生のおそれがある場合は、レベル4・レベル5となります。

現在は、浅間山の噴火警戒レベル2「火口周辺規制」(6月19日現在)で、山頂火口から概ね2kmは立ち入り禁止です。居住地域に大きな危険はありませんが、噴火活動は急に変化することもありますので、今後の浅間山噴火情報に十分注意してください。

また、噴火警戒レベルの判定基準について知りたい方は気象庁のホームページをご覧ください。

## 浅間山の噴火警戒レベル

予報 警報	対象 範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●天仁天明クラスの噴火発生、火砕流等が居住地域に到達。 天明噴火(1783年)の事例 8月4日～5日:吾妻火砕流、鎌原岩屑なだれ、吾妻泥流、鬼押出溶岩流等が発生</li> <li>●中噴火が頻発し、天仁天明クラスの噴火が切迫している。 天明噴火(1783年)の事例 8月1日～3日:軽石噴火の発生間隔が短くなり、継続時間が長くなる</li> <li>●積雪期中噴火に伴う火砕流が発生し、融雪型火山泥流が居住地域に到達、または到達すると考えられる。 過去事例 観測事例なし</li> </ul>
		4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での避難準備、災害時要援護者の避難等が必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中噴火が断続的に発生し、天仁天明クラスの噴火の発生が予想される。 天明噴火(1783年)の事例 7月26日～31日:中噴火が断続的に発生</li> <li>●噴火継続中の有感地震発生や顕著な地殻変動等により、天仁天明クラスの噴火の発生が予想される。 過去事例 観測事例なし</li> <li>●積雪期中噴火が発生し、居住地域に影響する融雪型火山泥流の原因となる火砕流が発生した可能性がある。</li> </ul>
火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及び)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。状況に応じて災害時要援護者の避難準備。登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●山頂火口から中噴火が発生し、4km以内に噴石や火砕流が到達。 2004年噴火の事例 9月1日:噴石が山頂火口から約2.7kmまで飛散 その他の事例 1973年2月1日:噴石が山頂火口から約2kmまで飛散、火砕流が1.5kmまで、融雪型火山泥流が2km付近まで到達 1958年11月10日:噴石が山頂火口から約3 kmまで飛散、火砕流が約3kmまで到達</li> <li>●中噴火が切迫している。 過去事例 2004年8月31日:山体浅部の膨張を示す傾斜変動と火山性地震急増 1973年2月1日:地震急増</li> </ul>
		2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及び)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺への立入規制等。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●山頂火口から小噴火が発生し、2km以内に噴石や火砕流が到達。 1982年噴火の事例 4月26日:噴石が山頂火口から約1kmに飛散、火砕流が約1kmまで到達</li> <li>●小噴火の発生が予想される。 2004年噴火の事例 7月下旬:噴煙量増加、火山性地震増加</li> </ul>
噴火予報	火口内等	1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及び)。	状況に応じて火口内への立入規制等。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●火山活動は静穏、状況により山頂火口から500m以内に影響する程度の噴出の可能性あり。</li> </ul>



### 溺れたとき・落ちてしまったとき

#### ポイント1…「泳がない」

海や川に落ちてしまったときには、「いかに早く安全なところに行く」のではなく、「いかにして助けを待つか」ということを考えてください。

#### ポイント2…「浮いて助けを待つ！」

むやみに体力を使わず、岸から浮力になるものを投げてもらおうことなどを考えましょう。もっとも大切なのは「浮きながら救助を待つ」ことです。

### 溺れている人を発見したら



#### ポイント1…「助けを求め、いち早く通報する」

大声で周りにいる人に協力を求めましょう。  
助けるためには、まず誰かに通報(119番)を依頼するか、近くに誰もいないときは、自分で迅速に通報することが大切です。

#### ポイント2…「浮くものを探す」

岸辺からの救助方法を考える。  
浮くものやロープを探し投げ与えることで、溺れている人が浮いていられる状態にしましょう。

#### ポイント3…「絶対に飛び込まない」

飛び込んで助けに入った大人も一緒に亡くなられてしまった。このようなニュースはよく耳にします。  
どんなに泳ぎに自信があっても、泳いで助けに行くことは、二次災害につながる危険があるので絶対にやめましょう。



問い合わせ先 佐久広域連合 御代田消防署(32)0119

## 河川やプール等での水の事故を防ぐために

- ① 小さい子どもと一緒に水遊びをする際は、子どもから目を離さず、保護者や大人が必ず付き添って遊びましょう。
- ② 飲酒後や体調不良時には遊泳は行わず、もし遊泳しようとしている人がいたら、周りには遊泳をやめさせましょう。
- ③ 海や河川では、気象状況に注意を払い、荒天時や天候不良が予測される場合は遊泳や川岸などでのレジャーは中止しましょう。
- ④ 海や河川では、ライフジャケットを着用するなど、事故の未然防止に努めましょう。